

連携先世界遺産：真言宗醍醐派総本山 醍醐寺

最新町石研究資料を広く伝えるプロジェクトII

上醍醐開山堂に至る道程に建てられている町石を調査研究し、地域やご参拝の方々にその文化遺産としての意義を伝える。

■受講生

安倍 彩結花 (文学部・4回生)、伊藤 凌 (文学部・4回生)、岡田 沙弥花 (文学部・4回生)、幸山 大 (文学部・3回生)、今西 もも (文学部・2回生)、大関 真央 (文学部・2回生)、奥山 乃里実 (文学部・2回生)、河合 秀弥 (文学部・2回生)、川島 怜香 (文学部・2回生)、五味 璃子 (文学部・2回生)、田中 孝憲 (文学部・2回生)、戸江 花音 (文学部・2回生)、中嶋 琉杏 (文学部・2回生)、中野 愛菜 (文学部・2回生)、成田 浩一朗 (文学部・2回生)、畠山 友希 (文学部・2回生)、佐々木 翔大 (京都経済短期大学)

■担当教員

小林 裕子 (京都橘大学・文学部・教授)、中久保 辰夫 (京都橘大学・文学部・准教授)

活動目的・概要

目的：町石とは登拝路や参詣道の路傍に一町（約109メートル）毎に立てられた道標のことです。醍醐寺には、下醍醐から上醍醐開山堂の道程に金剛界三十七尊をあらわす梵字と町数が刻まれた町石があり、鎌倉時代と江戸時代のものが三十五基が現存します。上醍醐町石は、京都市埋蔵文化財研究所や龍谷大学、石造物研究者らによって調査が重ねられてきました。本学では2022年度はじめて町石調査に着手し、五基の報告をまとめて発表いたしました。従来の研究と異なる点は世界最先端の文化財調査手法を用いたことで、これまで確認されてこなかった文字の解読にも繋がりました。そこで今年度も引き続き調査をおこなうことで、上醍醐ご登拝の皆さまや醍醐寺ご参拝の皆さま、そして地域の皆さまに上醍醐町石の文化遺産としての特長を伝えることが本学PBLの目的です。

概要：世界の文化財調査で実績をあげているSfM/MVS技術を用いて上醍醐町石を再調査し、先行研究と照らしあわせることで、上醍醐が今昔の人々にとっていかに重要な地であるか再考します。



◆主な活動(履修者共通内容のみ)

- 2023.9.21 オンラインによるガイダンス及びミーティング
- 2023.9.23 醍醐寺での課題発見、調査計画の立案のための事前調査
寺史講義(仲田順英師)・宇宙法要参列・下醍醐フィールドワーク(飯田俊海師)
- 2023.10.1 上醍醐登拝・事前調査
- 2023.10.15 上醍醐調査、2023.10.31 上醍醐追加調査
- 2023.11.1-30 各チームに分かれ、三次元モデル作成、文字解読、トレースの作業を実施
- 2023.12.10 成果発表会

活動の成果

最新文化財調査技術による町石の記録と参詣への思いの復元

企画案

醍醐寺金堂や五重塔を擁す下醍醐の東、女人堂から1時間以上登ると醍醐寺草創の上醍醐伽藍に到着します。醍醐寺最古の寺誌『醍醐雑事記』に先行して編纂されたという『醍醐寺縁起』には、理源大師聖宝が瑞雲に導かれて訪れた笠取山中で、老翁の姿をした地主神横尾明神と出会って醍醐に寺地を定めたこと、老翁が山中の清泉を飲んで「醍醐味なるかな」と言ったことが記されています。この記述から、上醍醐は創建伽藍であるとともに醍醐という寺号の発祥地であるとわかります。

上醍醐までの道程は険しい山道で、中世以来、参詣道に町石が樹立され、多くの参詣者の道標となってきました。古来引き継がれてきた信仰を、後世に正しく伝えていくにはどうすればよいか。ここに問題を見出し、本学では上醍醐を紹介するPBLを重ねてきました。

2016年には、上醍醐の地図や町石の位置を表示した「ほとけ手帳」を制作、2020年度には、手軽にダウンロードして使えるイラストマップを作成しました。昨年度からは「町石」の三次元記録と文字解読を行い、その意義を追及しています。すでに高野山町石との関連を意識した成果を得ましたが、今年は積極的に調査対象となる町石を増やし、町石建立がいかに醍醐寺にとって重要なものであったかを他寺との関係性も加味しながら考察していきます。

活動の成果

PBLは課題発見・解決型学習であることから、本学では「上醍醐までの険しい道程に、ひっそりと立つ町石をより多くの方に知っていただくにはどうしたらよいか」をテーマに、文学部歴史遺産学科ならではの活動をおこないました。私たちはまず、醍醐寺について仲田先生からご講義をいただき、飯田先生のご指導のもと下醍醐・上醍醐のフィールドワークをおこないました。次に、上醍醐の町石の調査を実施し、その後、

- 1) 町石の三次元モデルを作成する班
- 2) Adobe社のillustratorでトレースをする班
- 3) 先行研究を参考として、三次元モデルから新たに文字を解読できるのか、検証する班
- 4) 発表をまとめ、報告書作成を進める班

と、4つの班に分かれ、作業を行いました。

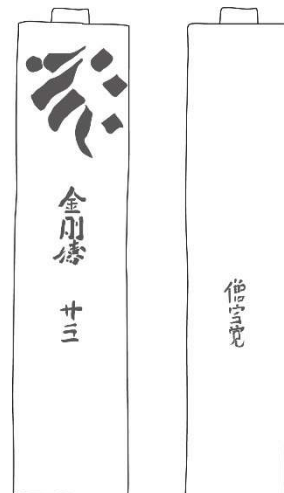
学術的にも成果となった点は、以下の通りです。

【成果1 上醍醐寺町石の記録】

- ・上醍醐寺町石残存三五基すべての写真撮影を完了しました。
- ・斜面地にあるために、撮影が困難であったものを除いて、大多数の三次元モデルを作成しました。
- ・三次元モデルを作成した後、学術研究に資することができるように、デジタルトレースも進めました。

【成果2 文字解読の進展と歴史の解明】

- ・十五町、十九町、二五町など、これまで判読不可となっていた町石の文字について、解読ができました。
- ・中世町石について、願主の検討を進めるとともに、中世段階の上醍醐参詣路やその歴史的背景がおぼろげながら明らかになってきました。





活動を振り返って

三次元モデル作成班

目で見て分かりづらかった文字が三次元モデルを作成することで文字が浮かび上がり、時間のかかる作業ではありましたが、やりがいを感じました。また実際に山を登ったからこそ分かる当時の人たちの信仰を体感することができたと思います。

町石トレース班

illustratorと3次元モデルのデータを組み合わせて作業したことは今回が初めてで、作業工程で何度もつまづくことがありましたが、1つずつ着実にトレース作業をしていくことができました。図面が完成した時には大きな達成感があり、同時にやりがいのある仕事だと感じました。

文字解読班

当初は「全く読めないだろう」と思い込んでいましたが、意外と読める漢字が多く、「もしかしたら、この漢字はこの文字ではないか」と考察することができました。しかし、自分が判読できたと思った文字は、その意味までは理解できないこともあり、文字一つ一つの意味などを深く理解し、精読する必要があると考えています。さらに研究を深めるとすると、考古学だけでなく古文書学の分野からの検討が必要であるなど、分野を超えた協業の必要性も体感したところです。

総括班

今回の授業を通じて、上醍醐を参詣した昔の人々が築き上げ、継承してきた信仰の歴史の重みを再認識させられました。上醍醐にはじめて参詣した時、視界が歪むほどの高さの階段を登ったことは、いまとなっては良い思い出です。また、三次元モデル化作成のための調査では、斜面地にある様々な角度の町石の撮影に戸惑いましたが、努力の甲斐あって新しい発見もありました。私たちの調査が、これからの時代も上醍醐寺に参詣する人々の信仰にとって有益なものになればと思います。

担当教員からのコメント

中久保 辰夫

5月にコロナ禍があげ、大学における学修へのさまざまな制限が解除されてきた感があります。醍醐寺様、コンソーシアム京都関係者の皆様におかれましては、変わらず本学のPBL科目にご指導ご協力を賜りまして誠に有り難うございます。学生にとっても、学外のいろいろな場でご指導をいただき、自ら考え行動するという機会を経て、将来社会で活躍するための大切な財産を得たのではないのでしょうか。本学では、昨年度に引き続き上醍醐に注目し、歴史遺産を取り扱う、当学科ならではの方法で問題解決型学習に取り組みました。昨年度試みた先端的な文化財調査技術をさらにすすめるため、新たにカメラや高性能PCを購入し、調査環境も整えました。その結果、判読不能で「□」を示されてきた多数の文字が浮かび上がる瞬間、新たな扉を開くかのようなワクワクを皆で共有する充実感も感じたものです。

履修学生自らの学びが社会でいかなる意味を持つのかあらためて考える科目でもある世界遺産PBLは、多くの皆さまに支えられ、導かれ、履修者同士の協力とともに作りあげていくものです。卒業後何年か経ってから、どれほど貴重な経験だったか振り返っていただければと願っております。

活動資料



(左上写真) 2023年度受講生集合写真

(右上写真) 醍醐町石調査風景

調査では、手持ちサイズのカメラでピントをあわせ、町石をめぐるように写真を撮影しました。作業着を身にまとい、斜面にも負けず、撮影しました。現在傾斜地にたっている町石もあり、安全を考慮して、今回、撮影できなかった町石もあります。

1つの町石の撮影にかかる時間は10～15分程度です。チームを分けて、連絡を取り合い、町石を分担して撮影を行いました。連携の結果、早くに作業も終わりました。

(左 上から2枚目) 三次元モデル化作業

撮影した写真は、共同研究室のPCで三次元モデルの作成をしていきました。三次元モデル班の出番です。写真の品質を確かめ、Metashapeというソフトで50～60枚の写真をつなぎ合わせて、モデルを作成していきます。梵字は浮かび上がり、石を切り出した矢穴痕跡も明瞭に図化できたものもあります。

(左 上から3枚目) スケールなどの調整

(左 上から3枚目) トレース作業

完成した三次元モデルを別アプリを用いて、Jpeg画像として書き出し、Adobe社のillustratorでトレースをしていきます。しかし、詳細な観察ができます。その結果、1つ1つの刻銘の筆跡が明らかになっていきます。この作業が一番時間がかかります。

モデル化が出来あがってくると、文字解読班の活動も進めました。先行研究によって判読されている文字を、今一度確かめるとともに、これまで読むことができていなかった文字についても解読を試みました。その結果、従来の研究ではわからなかった点も判明し、町石の歴史的背景に迫る発見もありました。

